

# 漆芸美術館だより



《蒔絵沈金箱「夜遊戯」》坂本康則（第39回日本伝統漆芸展 文部科学大臣賞）

# 94

第39回 日本伝統漆芸展

第27回 飛翔する輪島の漆芸作家たち—全国展入選作品—

石川県輪島漆芸美術館友の会 日帰り見学会実施報告

ミュージアムショップからのお知らせ

イベント情報

2022年1月11日発行

# 展覧会案内 第39回 日本伝統漆芸展

2022年2月5日(土)～2月27日(日)会期中無休

日本を代表する工芸として、永い歴史をもつ漆

芸。日本伝統漆芸展は伝統の継承とその練磨、現代への応用を目指して毎年開かれています。第39回を迎える今年度は、受賞作8点を含めた入選作品全83点を展示いたします。

文部科学大臣賞を受賞した坂本康則氏の《蒔絵沈金箱「夜遊戯」》(表紙)は、作者が幼い頃に見た情景を、蒔絵と沈金、そして螺鈿の技法を駆使し、長手の隅切漆箱に描いた作品です。螺鈿で水のきらめきを、薄暗い中にも微かに見えるシダを青粉と黒乾漆粉を蒔き暈かすことで表し、その上に蛍が描かれています。細かな点彫で表現された蛍光は、3方向から彫ることどこから見ても彫りの反射で光って見えるよう工夫が施されています。蒔絵と沈金という異なる加飾技法が見事に融合し、蛍が飛び交う夏の夜の幻想的な光景が広がる作品です。

朝日新聞社賞を受賞した米本有希氏の《蒔絵箱「遊彩」》(写真1)は、白漆塗の箱に、輪島海で築き上げた泳ぐクサフグの姿を描いた作品です。白漆にほんの少し青と緑の色漆を重ね、微塵貝や金銀粉を蒔くことで、海に差し込む光や渦巻く水の流れを表現しています。さらに蜻蛉塗の複雑な模様を重ねることで泡沫がきらめく海の広が

りを感じさせます。

奨励賞 石川県輪島漆芸美術館賞を受賞した中室惣一郎氏の《蒔絵箱「衾雪」》(写真2)は、雪で覆われた世界に鮮やかに咲く椿の花を描いた作品です。地は白の絞漆で格子状に筋をつけ、銀粉を蒔き詰めて研ぎ出す工程を繰り返すことで、降り積もった雪の表層がきらめく様子を表現しています。墨画のような輪郭の椿は乾漆粉を研ぎ出したもので、赤の色漆で描かれた椿との対比が絶妙です。

《蒔絵箱「竹林」》(写真3)で奨励賞 熊本県伝統工芸館賞を受賞した大角裕二氏を含め、8名の受賞者のうち4名を輪島在住の作家が占めました。漆の里・輪島の高い技術力が評価された結果ではないでしょうか。当地での開催を通して、技

術や芸術性の粋を多くの方々にご堪能いただければ幸いです。  
(福江里美)

## 【列品解説のご案内】

会期中出品者による展示作品の解説を行います。

2月6日(日) 小森邦衛氏

(審査・鑑査委員、重要無形文化財保持者)

2月13日(日) 市島桜魚氏

(審査・鑑査委員)

2月20日(日) 山岸一男氏

(重要無形文化財保持者)

2月27日(日) 寺西松太氏

(審査委員資格者)

いずれも13時30分開始\*入館券が必要です



(写真1)  
《蒔絵箱「遊彩」》米本有希  
朝日新聞社賞



(写真2)  
《蒔絵箱「衾雪」》中室惣一郎  
奨励賞 石川県輪島漆芸美術館賞



(写真3)  
《蒔絵箱「竹林」》大角裕二  
奨励賞 熊本県伝統工芸館賞

# 展覧会案内 第27回 飛翔する輪島の漆芸作家たち―全国展入選作品―

2022年3月5日(土)～5月8日(日)会期中無休

日本有数の漆器産地である輪島の作り手たちは、全国規模の公募展に参加し、輪島漆芸の基盤を築いてきました。今もその技術と伝統は脈々と受け継がれ、人間国宝から新進まで、幅広い世代の作家たちが活躍しています。

本展覧会では、令和2年度の全国公募展における輪島の漆芸作家たちの入選並びに特別出品作を一堂に展示します。ここではその中から3点をご紹介いたします。

田中貴司氏の《ディスカッション》(写真1)は、ピエロ、猫、フクロウ、ネズミ、鳥が語り合っている様子を、色漆や乾漆粉、螺鈿を用いて研出蒔絵で描いた作品です。月明りのもと、夜話に興じるそれぞれの視線の先をたどり、会話の内容を想



(写真1)《ディスカッション》田中 貴司  
2020年改組新第7回日展

像してみるのも楽しいでしょう。リングとサクラノボの赤がアクセントになっています。

清水康志氏の《乾漆合子》(写真2)は、石垣を題材にした作品です。曲輪造の技法に発想を得て、乾漆で成形された輪を積み重ねた構造となっています。長短様々な長方形から成る側面は、凹凸ごとに変塗と塗立(花塗)に塗り分けられ、質感に変化が付けられています。

水谷内修氏の《沈金箱「落葉」》(写真3)は、一見3段の箱にも見えますが、上段は合口造りの蓋になっており、下段は意匠の構成上引かれた線で、実際には分かれませんが、浅い懸子が付いている他、内側はふるいにかけてまき散らした金箔が朱合漆で塗りこめられています。落葉は、量感



(写真2)《乾漆合子》清水 康志  
2021年第38回日本伝統漆芸展

を出すために予め点彫をし、その上から線彫で忍の文様が彫られています。沈金の彫りの魅力が引立つシンプルな構成でありながら、細やかな工夫が施された作品です。

この他にも本展では、幅広い世代の輪島の漆芸作家の、会派を越えた作品を展示いたします。気鋭の作家たちが作り出す、美と卓越した技をご覧ください。(河原法子)

## 【オンライン配信】

会期中、蒔絵作家・田崎昭一郎氏にインタビューをした特別映像のオンライン公開を行います。今なお制作意欲に満ちた先達の創作にかける思いをお届けします。ホームページにてご確認ください。



(写真3)《沈金箱「落葉」》水谷内 修  
2020年第67回日本伝統工芸展

漆芸美術館のコレクションの一側面―「みんなの《推し》コレクション」推しコレ!」展より

当館は2021年に開館30周年を迎え、皆様のおたまたまご支援のもと、記念特別展も無事幕引きとなりました。この節目を新たな門出に、地域に寄り添う美術館として歩み続ける意志をいっそう強くしています。2021年12月4日から2022年1月23日まで開催の「みんなの《推し》コレクション」推しコレ!」ではご来館の皆様による当館所蔵品の人気投票を実施し、その結果をもとに展示品を選定しました。開館30周年のクライマックスを飾る事業として、お客様とともにコレクションの魅力を発見し、展覧会を作り上げようとする初めての試みとなりました。

石川県輪島漆芸美術館は1991年9月6日、堅牢優美を誇る輪島塗の産地にあつて数多の漆芸作家を擁するこの地に開館しました。漆芸技術の伝承及び向上に努め地域文化の発展に寄与する目的のもと、展示公開、収集、調査研究、普及活動を行ってきました。コレクションは輪島塗から輪島の作家による漆芸品や国内各地の名品、東南アジアをはじめとする世界各地の漆器の数々に至ります。ほとんどが漆芸品またはそれに関連する資料であり、その一貫性は他に類のないものです。以来漆芸をあらゆる角度から取材するため、時代や場所、性格など、コレクションの幅は押し広げられてきました。

同展で注目された2点を紹介しましょう。《花鳥紋飾篋》(写真左)は昭和期輪島漆芸の礎となつ

た竹園自耕の初の特選作です。当館のオープンに合わせてご寄贈いただき、その翌年に輪島市の文化財に指定されました。いずれの点においても記念碑的な存在です。金や銀ではなく、色漆の着彩により全体をまとめ上げ、品格ある図案構成と時絵師ならではの精密な肉取りがその効果を限りなく高めています。折に触れてご覧いただく機会も多く、最も人気を集めた作品のひとつとなりました。地元漆芸に対する関心の高さを強く意識させられます。

芸作品としてだけではその価値を真に語りえない資料もあります。《陶漆飾皿》(写真右)の作者、辻光典は日展で壁面の大作を発表し、日本芸術院賞を受賞した大家です。一方、石や陶に漆絵を描くなど素材にとらわれない多様な制作に取り組み、工芸の新たな価値の追究に生活感覚を生かすため、身の回りを豊かに彩ることに傾注しました。1949年には岡山県のインペラ陶漆工房の取締役に就任しています。素焼きの生地に漆を焼き付ける陶漆の輸出販売に新機軸を見出すべく招聘されたのでした。一票を投じていただいたお客様の「陶器と漆という異素材の組み合わせも、デザインも好み」という言葉の通り、そばにおいておきたくなるような愛着を湧き立てられます。こうした資料を活用しつつ産業と芸術とのかかわりを詳らかにすることも、美術館に課せられた大切な役割です。

(寺尾藍子)



《花鳥紋飾篋》  
竹園自耕  
1932年第13回帝展特選  
輪島市指定文化財



《陶漆飾皿》  
辻光典  
20世紀後半

## 友の会日帰り見学会

国立工芸館  
見学先 石川県立歴史博物館（以上金沢市）  
洞谷山永光寺（羽咋市）

2021年11月10日、当館友の会による日帰り見学会を実施しました。

2班にバスを分けて見学会を行いました。国立工芸館「《十二の鷹》と明治の工芸」、石川県立歴史博物館「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」では、重厚な展示品に息をのみました。

昨年開創700年を迎えた大本山總持寺ゆかりの寺院、洞谷山永光寺はもみじの紅葉が大変美しく、歴史を感じさせる伽藍とともに堪能しました。あいにくの雨でしたが、「どの見学先も見ごたえがあり感動！」といったご感想をいただき、実りある見学会となりました。



## ミュージアムショップ お知らせ

からの

輪島市プレミアム付商品券  
使えます！

石川県輪島漆芸美術館ミュージアムショップでは、公式キャラクターわんじまのオリジナル新商品の発売を予定しています。詳しくは当館ホームページでお知らせいたしますので、ぜひチェックしてください！



オンラインショップはこちら

2月上旬  
販売開始

## イベント情報

### メモリアルパネル展

2月5日(土)～2月13日(日)

会場 当館講義室 \*入場無料

市内小学6年生による沈金パネル作品を展示します

### 鬼わんじまぬりえ展

2月5日(土)～2月13日(日)

会場 当館講義室 \*入場無料

市内の保育園・幼稚園生による、節分にちなんだぬりえを展示します

### 「輪島あえの風冬まつり」特別協賛料金

2月11日(金・祝)～2月20日(日)

一般420円 高大学生210円 小中学生100円

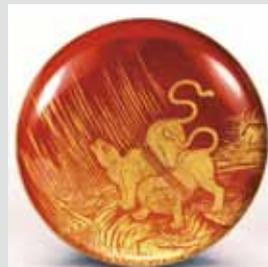
期間中は上記料金で入館できます

### 数量限定! オリジナル絵はがきセットプレゼント

2月11日(金・祝)～2月13日(日)

各日先着60名様にプレゼント \*要入館券

## インターネットミュージアム 干支コレクションアワード 2022 参加中!



《けもの模様沈金三つ組杯》

2022年の干支「寅」が描かれた各美術館、博物館所蔵品の紹介とともに、人気投票を行う企画に参加しています。お正月といえばやはり輪島塗。ひそかに闘志を燃やしています。ぜひ、あなたの清き一票を投じてください! ランキングの結果発表もぜひチェックをお願いします。

■投票期間 2022年1月27日(木) 15:00まで



## ご来館のお客様へお願い

■新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底のため、ご来館時にはマスクの着用、手指の消毒をお願いいたします。また、検温を実施し、37.5℃以上の発熱がある場合、入館はご遠慮いただきます。混雑時には入場制限を行うことがございます。詳細な取り組みにつきましては、事前にホームページ上で「ご来館の皆様へ」をご確認ください。

### 開館時間

9:00～17:00  
(入館は閉館の30分前まで)

### 入館料

	個人	団体(20名以上)
一般	630円	520円
高大学生	320円	210円
小中学生	150円	100円

### アクセス

- ◎飛行機  
羽田空港から約60分  
»のと里山空港から車で約20分
- ◎車  
金沢市内»のと里山海道利用=約100分  
(自家用車・大型バス無料駐車場有)
- ◎特急バス  
金沢駅»北鉄奥能登バス「輪島駅前」下車  
=約120分
- ◎「輪島駅前」から  
▶のらんげバス海コース「漆芸美術館」下車  
▶徒歩約15分



〒928-0063  
石川県輪島市水守町四十苅11番地  
TEL 0768-22-9788  
FAX 0768-22-9789  
<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>